

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19591346

研究課題名（和文） ころのリスク状態における脳構造および脳機能の解明

研究課題名（英文） Brain structural and functional analysis of at risk mental states

研究代表者

中村 主計（NAKAMURA KAZUE）

富山大学・大学病院・助教

研究者番号：00447658

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：内科系臨床医学 精神神経科学

キーワード：精神生理学

1. 研究計画の概要

統合失調症の前駆状態の診断精度向上のため、前駆状態にみられる臨床的特徴および脳形態・機能の特徴を明らかにすることを目的とする。すなわち、国際的に共通して用いられる「ころのリスク状態（ARMS）」の臨床診断基準により診断された統合失調症の発症危険群を対象に、詳細な臨床症状の評価、構造的 MRI による脳構造の評価、DTI による脳部位間の機能的結合の評価、社会性関連課題を用いた機能的 MRI 検査による脳機能の評価を行う。

2. 研究の進捗状況

対象のデータは蓄積されてきており、統合失調症患者による予備的検討ではあるが、学会報告を行うことが出来た。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

対象のデータは蓄積されてきており、予備的検討ではあるが、学会報告を行うことが出来た。現在、ARMS 例の検討を開始している。

4. 今後の研究の推進方策

対象のデータ収集は継続する。現在は、ARMS 例のデータについて検討し、結果をまとめる予定である。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① Kawasaki Y., Suzuki M., Takahashi T. et al. Anomalous cerebral asymmetry in patients with schizophrenia demonstrated by voxel-based morphometry. *Biological Psychiatry*, 63: 793-800.

② Kawasaki Y., Suzuki M., Kherif F. et al. Multivariate voxel-based morphometry successfully differentiates schizophrenia patients from healthy controls. *Neuroimage*, 34: 235-242, 2007.

〔学会発表〕（計 4 件）

① 中村主計、川崎康弘、鈴木道雄ら統合失調症患者の白質 FA 変化と灰白質の体積の関係について第 5 回日本統合失調症学会，2010. 3. 26，福岡。

② 中村主計、川崎康弘、鈴木道雄ら統合失調症患者における白質拡散異方性と臨床症状の関連の検討. 第 31 回日本生物学的精神医学会，2009. 4. 24，京都。

③ 中村主計、川崎康弘、高橋努ら拡散テンソル画像による統合失調症患者の白質の FA 変化についての検討. 日本統合失調症学会第 4 回大会，2009. 1. 31，大阪。

④ Kawasaki Y., Suzuki M., Takahashi T. et al. Clinical service for young people at risk of developing psychosis: Toyama early detection & intervention project. The 14th Biennial Winter Workshop on Schizophrenia and Bipolar Disorders. 2008. 2. 5, Montreux, Switzerland